

<b>滋賀県に適した醸造用ブドウ専用品種の選定</b>			
<b>【要約】</b> 垣根仕立て短梢せん定栽培において、赤ワイン用品種では‘ヤマソービニオン’が果実品質や収量性に最も優れており、次いで‘ビジュノワール’、白ワイン用品種では‘シャルドネ’および‘モンドブリエ’が有望である。			
農業技術振興センター・花・果樹研究部・果樹係		<b>【実施期間】</b>	令和元年度～令和5年度
<b>【部会】</b>	農産	<b>【分野】</b>	競争力の強化
		<b>【予算区分】</b>	県単
		<b>【成果分類】</b>	指導

### 【背景・ねらい】

本県における醸造用ブドウ栽培は極わずかで、その多くは生食用として販売している‘マスカット・ベリーA’の一部を赤ワイン用として、‘デラウェア’への一部を白ワイン用として、それぞれ出荷している。一方で、実需者（ワイナリー）からは、ワインの商品表示ルールの変更に伴い、県内産醸造用ブドウの増産が求められている。また、生産者からは、省力的に栽培可能な垣根仕立ては、生食用品種で一般的に栽培されている平棚仕立てよりも初期投資額が少ないことから、導入の期待がある。

醸造用ブドウ専用品種は、他都道府県では育成が進められており、海外品種も含めて多数栽培されているが、本県の気候等に適した醸造用ブドウ専用品種は明らかでなく、垣根仕立て栽培も、本県での栽培事例がほとんどない。

そこで、実需者ニーズに迅速に対応するため、醸造用ブドウ専用品種の垣根仕立て短梢せん定栽培において、省力的な栽培が可能で、果実品質および収量性に優れた有望品種を明らかにする。

### 【成果の内容・特徴】

- ① 赤ワイン用品種のうち、‘ヤマソービニオン’は安定して900 kg/10aの収量を確保でき、果実品質に優れていることから、本県への適応性が最も高く有望である。‘ビジュノワール’は、収量と糖度が年次により変動するものの、収穫時期が早く、新梢管理に要する作業時間は短いことから、‘ヤマソービニオン’に次いで有望である（表、図）。
- ② 白ワイン用品種のうち、‘シャルドネ’は糖度が年次により変動するものの、安定して900 kg/10aの収量を確保でき、新梢管理に要する作業時間も短いことから、有望である。‘モンドブリエ’は収量が年次により変動するものの、果実品質に優れており、‘シャルドネ’と同様に有望である（表、図）。

### 【成果の活用面・留意点】

- ① 本試験は、1年間ポットで育成した後、2019年3月に試験ほ場に定植し、株間6.0m×列間2.5m、主枝高80～100cmの垣根仕立てによる短梢せん定で栽培した、7年生樹を用いた結果である。
- ② 果房部分を第一誘引線に新梢誘引後（6月上旬頃）から収穫期まで雨除け被覆したうえで、病害に対する農薬防除は、休眠期（3月）から収穫期（10月上旬）までに11～12回/年（うち5～6回は無機銅剤）行った結果、有望である4品種の収穫期における病害の発病程度は、‘マスカット・ベリーA’と比べて同等以下である。
- ③ 糖度20Brix%以上、収量900 kg/10a以上、新梢管理に要する作業時間44時間以下/10aを基準に、有望品種を選定した。
- ④ 栽培の開始にあたっては、出荷先となるワイナリーと事前の調整を図る必要がある。

## [具体的データ]

表 生育の特性および新梢管理に要する作業時間（2022年, 2023年）

品種名	年	発芽期 <sup>z</sup>	開花盛期 <sup>y</sup>	果粒軟化期 <sup>x</sup>	着色開始期 <sup>w</sup>	収穫期	樹勢 <sup>v</sup>	新梢管理に要する作業時間 <sup>u</sup>	
ビジュノワール	2022	4月12日	5月30日	7月26日	8月1日	8月24日	中～強	23.7	
	2023	4月11日	5月29日	7月31日	7月31日	8月28日		25.5	
赤 ワ イ ン	甲斐ノワール	2022	4月11日	6月1日	8月1日	8月3日	9月21日	強	32.9
	ヤマソービニオン	2022	4月4日	5月16日	7月22日	7月25日	9月26日	強	28.1
用	メルロー	2023	3月28日	5月15日	7月18日	7月23日	10月4日		32.8
	マスカット・ベリーA	2022	4月11日	5月31日	7月26日	7月29日	9月5日	中～強	35.9
	マスカット・ベリーA	2022	4月10日	5月31日	8月8日	8月12日	9月28日	中～強	26.6
	2023	4月2日	5月31日	8月13日	8月13日	9月26日		34.8	
白 ワ イ ン	モンドプリエ	2022	4月9日	5月26日	7月21日	—	8月29日	中～強	29.6
	2023	3月31日	5月23日	7月21日	—	9月4日	48.1		
用	甲斐ブラン	2022	4月9日	5月27日	8月16日	—	10月3日	強	38.8
	シャルドネ	2022	4月9日	5月26日	7月27日	—	8月30日	強	22.1
	サンセシヨン	2023	4月1日	5月24日	7月25日	—	8月30日		31.0
	デラウェア	2022	4月9日	5月27日	7月22日	—	8月29日	中	22.4
	デラウェア	2022	4月11日	5月23日	7月23日	7月28日	8月19日	中	57.6
	2023	4月3日	5月21日	7月22日	7月26日	8月22日		65.1	

z: 全体の50%発芽した日. y: 80%以上開花した花穂が80%以上になった日.

x: 全果粒のうち50%の果粒が軟化した果房が50%になった日. w: 全果粒のうち50%の果粒が着色した果房が50%になった日.

v: 落葉後に新梢長やその太さ、幹周で判定（基準として中：デラウェア、強：巨峰）.

u: 発芽から収穫期までに新梢管理に要した作業時間(2022年は芽かき作業を含まない).

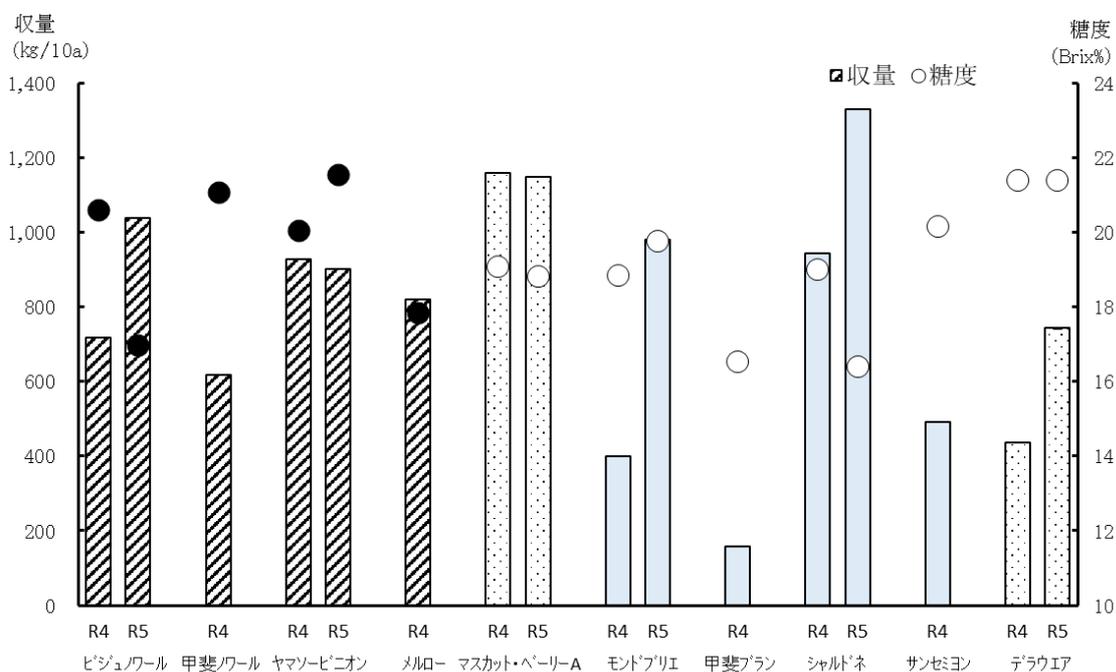


図 各品種の収量と果実品質

## [その他]

注) 'モンドプリエ'の2022年の収量が低い原因は、新梢間隔や着房数が適切ではなかったため

### ・研究課題名

大課題名：経済活動としての農業・水産業の競争力を高める研究

中課題名：需要への変化への対応と農地・農業技術等の実証

小課題名：新たな需要に対応した醸造用ブドウ栽培技術の開発

### ・研究担当者名：三溝 啓太（R1～R5）

### ・その他特記事項：技術的要請課題：東近江農業農村振興事務所（H29）